

## 台風9号による江戸川放水路からの出水について

企画調整課三番瀬再生推進室

## 1. 江戸川の出水概要

- 江戸川の河口から約39km地点の野田水位観測所では、はん濫注意水位6.30mを約10時間超過。
- 行徳可動堰の操作状況  
 開放開始：9月 7日 9時41分  
 全 閉：9月10日14時28分 開放継続時間 約3日5時間（77時間）  
 参考資料添付：「台風9号江戸川出水速報」P2

## 2. アサリ影響調査結果について

- 平成19年9月7～10日の江戸川放水路出水後、東京湾北部貝類漁場でアサリが死亡したため、9月22日に生息状況調査を実施した。
- 各調査点での水温は26.2～27.3℃でやや高めであり、塩分は20.8～21.6PSUで低かった。また、st.30で厚さ4cmの堆積泥が認められた。アサリの死亡は、江戸川放水路河口部から市川航路東側の岸寄りの調査点が中心であり、5調査点で80%以上の死亡率だった。
- アサリの生残密度は、沖寄りおよび西側の調査点8点で中貝サイズを中心に約900～2,000個/m<sup>2</sup>であり、大型サイズでは4点で100個/m<sup>2</sup>以上のアサリが認められた。
- アサリの死亡量は約1,900t、出水前資源量の30%と推定された。  
 参考資料添付：「江戸川放水路出水によるアサリ影響調査結果概要」P8

## 3. ごみの漂着について

- 県葛南地域整備センター葛南港湾事務所では、流木、竹、葦等、大量のごみが、船橋市日ノ出町前面海域にわたり5haから10ha程度漂流、船橋市港内に漂着したことを確認し、清掃船および工事用の作業船により撤去作業を行った。
- 船橋市では、ふなばし海浜公園に漂着したゴミを砂もろとも重機で回収した。回収量は、502トン（うち約400トンは砂と思われる。）で、現在、船橋市南部清掃工場（海浜公園隣）に野積みしている。来年7月にふるいで砂とゴミを分別し、砂は海浜公園に戻し、ゴミは、塩分を洗浄した後、破碎して廃棄物焼却炉で焼却予定である。19年度回収費用は、370万円、20年度焼却費用は、430万円（予算要求予定）である。
- 習志野市では、谷津干潟に流木、アシが幅約400m奥行き5～30mにわたって漂着していることを確認し、市民、保全団体の協力を得て除去作業を実施した。  
 参考資料添付：「船橋市港内におけるごみの漂着について」P17  
 「台風9号に伴う船橋港の流木等対策について」P18  
 「台風9号による谷津干潟への漂着ゴミの対応について」P19

速報データを使用しているため今後修正されることがあります。

# 台風9号 江戸川出水速報



1. 気象概要
2. 出水概要
3. 事務所の体制等・水防警報
4. 江戸川河川事務所の取り組み



平成19年10月

国土交通省 関東地方整備局 江戸川河川事務所

## 2. 出水概要

### 江戸川河川事務所管内 水位観測所位置図





## 水防警報基準地点 洪水別最高水位 (m)

河川名	観測所名	S22.9.16	H13.9.11	H16.10.9	H19.9.7	(参考)設定水位			
		カスリーン 台風	台風15号	台風22号	台風9号	水防団 待機水位	はんらん 注意水位	はんらん 危険水位	計画高 水位
江戸川	西関宿	8.93	6.95	4.73	6.19	4.50	6.10	8.80	9.12
	野田	8.37	7.03	5.62	6.59	4.60	6.30	9.20	9.34
	松戸	6.67	5.38	4.41	4.89	4.00	5.70	-	8.13
中川	吉川	-	-	4.26	3.35	3.30	3.60	4.20	4.75
	高砂	-	-	2.53	2.66	2.40	2.70	-	3.41
綾瀬川	谷古宇	-	-	3.44	2.82	2.70	3.00	4.00	4.10
坂川	大谷口新田	-	-	-	2.47	2.70	3.20	-	4.20
利根川	栗橋	9.17	7.66	5.58	7.84	2.70	5.00	8.90	9.90

## 主要高水流量基準地点 洪水別最高流量 (m<sup>3</sup>/S)

河川名	観測所名	S34.8.14	S57.9.13	H13.9.11	H16.10.9	H19.9.7
		台風7号	台風18号	台風15号	台風22号	台風9号
江戸川	西関宿	-	2,822	2,058	1,149	※ 1,906
	野田	3,698	2,812	2,020	1,333	※ 1,934
中川	吉川	-	-	449	568	※ 340
綾瀬川	谷古宇	-	74	-	73	-
利根川	八斗島	9,070	8,000	-	1,961	※ 8,460
	栗橋	10,210	11,606	7,982	3,882	※ 8,954
※テレメータ水位から換算した計算値						

# 水位・流量状況図(江戸川)

時間雨量  
(mm/H)

八斗島上流域

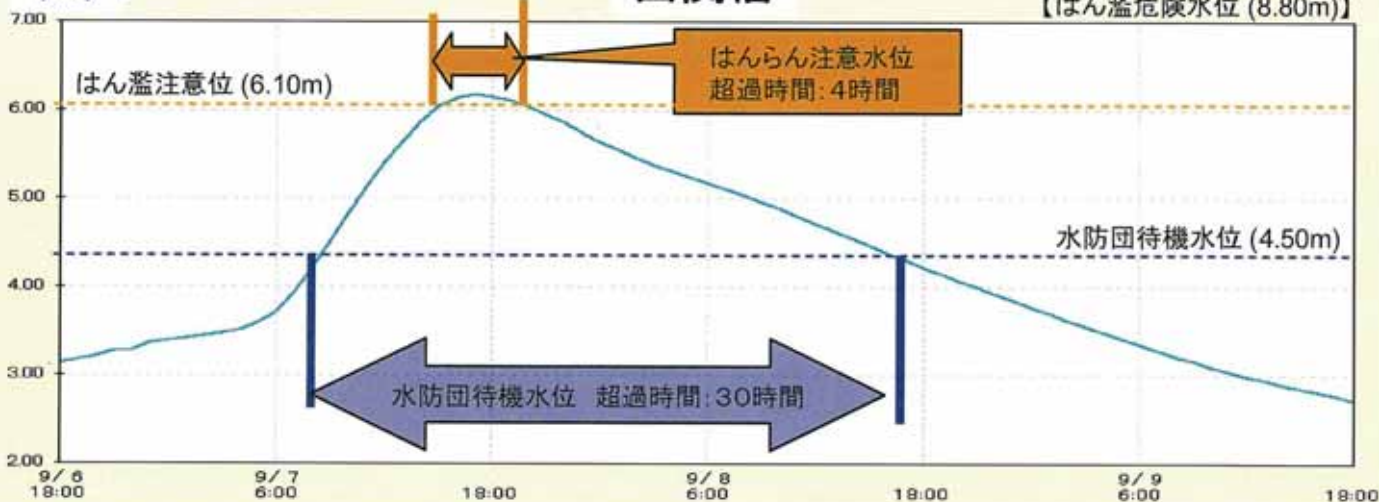
累加雨量  
(mm)



水位  
(m)

西関宿

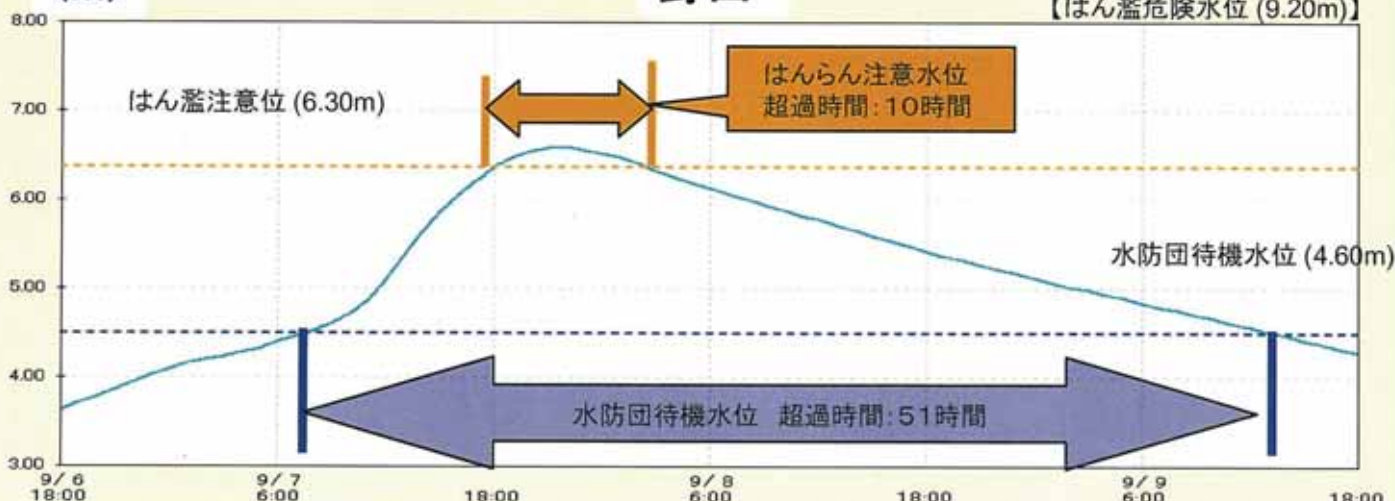
【計画高水位 (9.12m)】  
【はん濫危険水位 (8.80m)】



水位  
(m)

野田

【計画高水位 (9.34m)】  
【はん濫危険水位 (9.20m)】



江戸川では、西関宿・野田ともに、平成13年以來  
はんらん注意水位を超える出水となりました。



# 出水状況



出水前



平成19年9月7日15時 撮影

江戸川59.5km付近 関宿水閘門



出水前



平成19年9月8日14時 撮影

江戸川51.0km付近 宝珠花橋



出水前



平成19年9月8日6時 撮影

江戸川35.5km付近 玉葉橋より下流を望む



## 行徳可動堰付近出水状況



下流側江戸川放水路上空から上流側を望む



江戸川10.0km付近から下流江戸川放水路を望む

# 江戸川放水路出水によるアサリ影響調査結果概要

船橋市漁業協同組合  
市川市行徳漁業協同組合  
南行徳漁業協同組合  
千葉県水産総合研究センター

## 1 方法

### (1) 水質調査

調査点 34 点（図 1）において、携帯型水質測定器を用いて水温、塩分を計測した。

### (2) 泥土堆積調査

同じく調査点 34 点（図 1）において、直径 40mm の柱状採泥管で海底土を採取し、海底表面に堆積した泥土の厚さを測定した。

### (3) アサリ生息状況調査

同じく調査点 34 点（図 1）において、南行徳・行徳漁協管内は目合い 10mm の大まきかごで、また船橋漁協管内は目合い 2mm の金網を内張りした大まきかごでそれぞれ海底面を 1m 曳き、底土とともに貝類を採取した。採取物は、砂をふるい落とした後、秤量してその一部（各調査点 1kg）を分取し、その試料について 7 段階の目合いのふるいで大きさをふるい分け、大きさごとにアサリとバカガイのそれぞれ生貝と死貝を計数した。死貝の判別に当たっては、二枚の貝殻が韌帯でつながっていて、貝殻内面が汚れておらず光沢のあるものを死貝とした。また、生貝は調査点ごとに分けて試料として 10%ホルマリンで保存し、殻長と重量を計測した。



## 2 結果

### (1) 水質調査

底層水温は 26.2～27.3℃で、各調査点間の差は小さく、例年よりやや高めであった（図 2）。

底層の塩分は 20.8～21.6PSU で、アサリの生存に悪影響を与えるほどの低塩分ではなかった（図 3）。

### (2) 泥土堆積調査

明らかな泥土の堆積が見られたのは江戸川放水路の開口部に近い st.30 点で、堆積厚は 4cm だった（図 4）。この他にも、市川航路沿いから東にかけて 4 点（st.11, 12, 21, 27）で、貝類の採取時に濁りが生じることが観察された。

### (3) アサリ生息状況

#### アサリ死亡率

アサリの死亡率が高かったのは、江戸川放水路開口部から市川航路東側の岸寄りの調査点であり、st.12, 19, 25, 26, 30 で 80%以上だった（図 5）。また、市川航路沿いの st.20, 27 ではそれぞれ 51, 29%の死亡が認められた。

殻長 27mm 以上の大型アサリについて見ると、st.12, 19, 25, 30 ですべてのアサリが死亡しており、st.20, 26, 27 で 80%以上の死亡率だった（図 6）。

市川航路沖寄りおよび西側の調査点ではアサリの死亡はほとんど認められなかった。

#### アサリ生残密度

1,000 個/m<sup>2</sup>前後あるいはそれ以上の高密度のアサリが認められたのは、市川航路中央から沖寄り、及び東側、西側とも沖側の調査点であり、

st.2, 4, 7, 13, 18, 21, 27, 36 で約 900～2,000 個/m<sup>3</sup>であった (図 7)。これらの多くは殻長 11～27mm の中貝サイズであった。

殻長 27mm 以上の大型アサリについて、100 個/m<sup>3</sup>以上の密度が認められたのは st.3, 7, 18, 28 であった (図 8)。

### アサリ死亡量と生残量

殻長 16mm 以上のアサリについて、重量密度の分布から推定計算した全域でのアサリ死亡量は約 1,900t、生残量は約 4,500t であり、出水前資源量の 30% が死亡したと推定された (表 1)。

表 1 アサリの推定死亡量

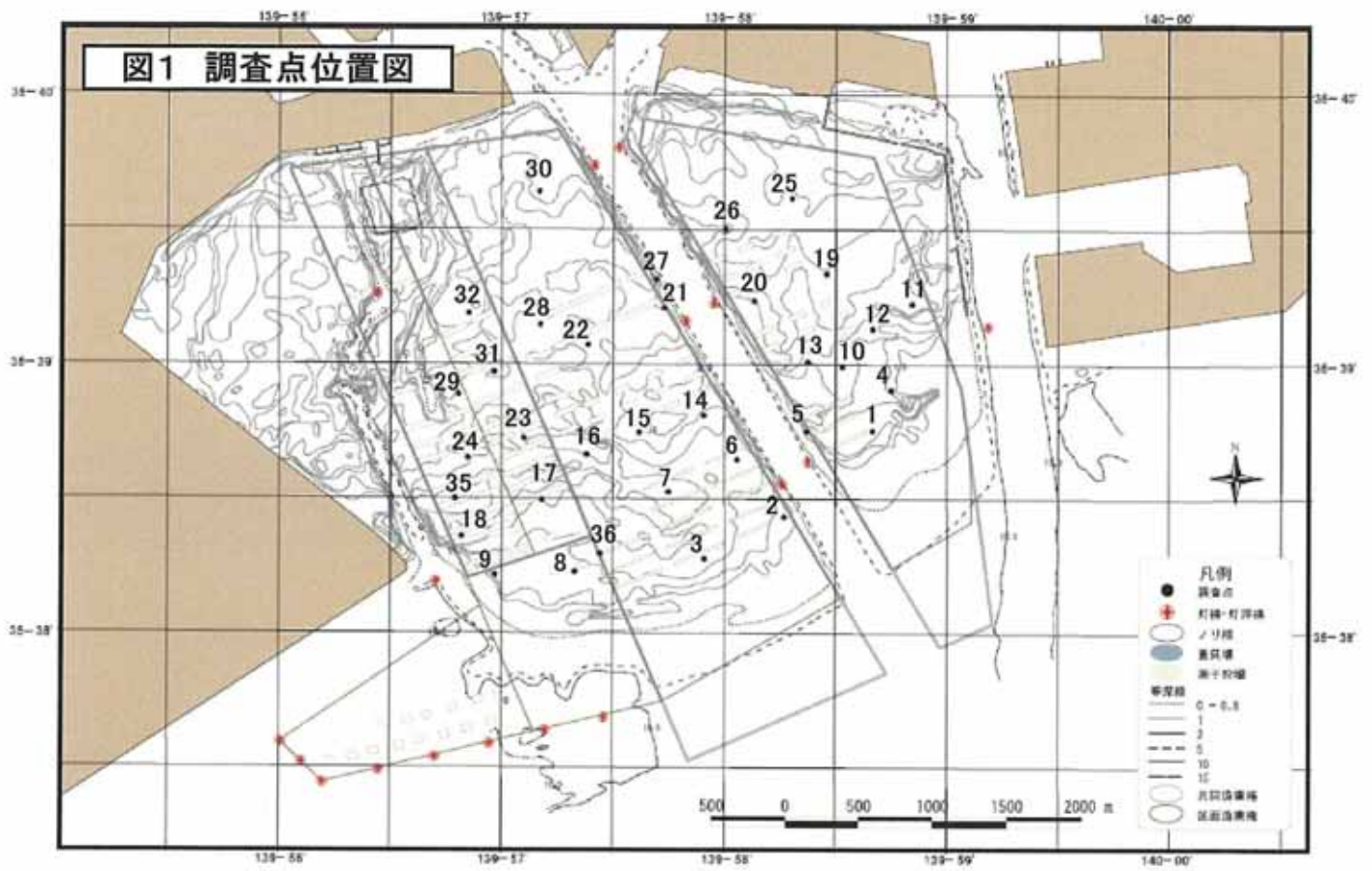
漁協	出水前資源量 (t)	死亡量 (t)	生残量 (t)	減少率 (%)
南行徳	400	—	400	—
行徳	400	—	400	—
船橋市	5,600	1,900	3,700	34
合計	6,400	1,900	4,500	30

## 3 要約

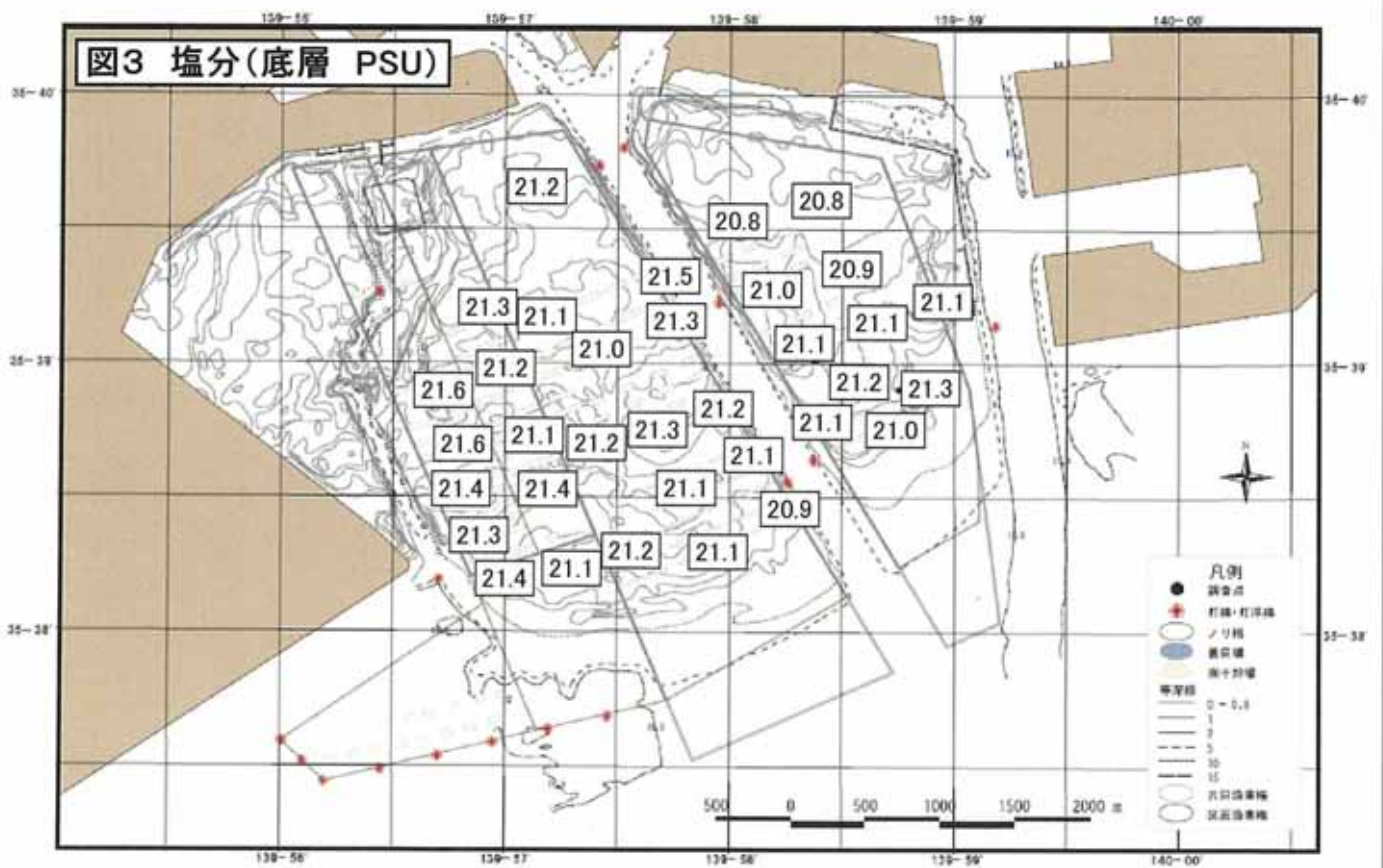
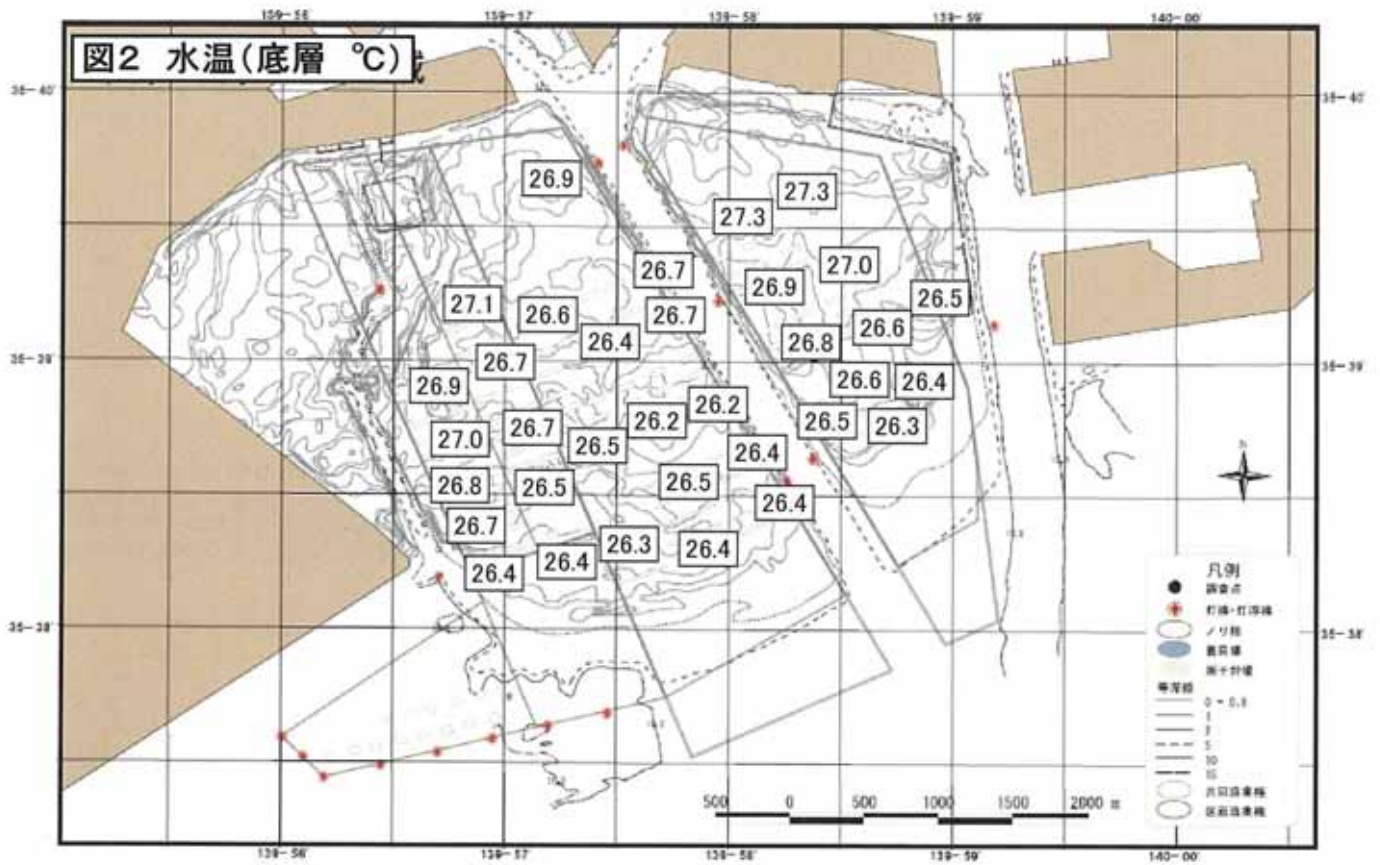
- (1) 平成 19 年 9 月 7～10 日の江戸川放水路出水後、東京湾北部貝類漁場でアサリが死亡したため、9 月 22 日に生息状況調査を実施した。
- (2) 各調査点での水温は 26.2～27.3℃でやや高めであり、塩分は 20.8～21.6PSU で低かった。また、st.30 で厚さ 4cm の堆積泥が認められた。

- (3) アサリの死亡は、江戸川放水路河口部から市川航路東側の岸寄りの調査点を中心であり、5調査点で80%以上の死亡率だった。
- (4) アサリの生残密度は、沖寄りおよび西側の調査点8点で中貝サイズを中心に約900~2,000個/m<sup>2</sup>であり、大型サイズでは4点で100個/m<sup>2</sup>以上のアサリが認められた。
- (5) アサリの死亡量は約1,900t、出水前資源量の30%と推定された。



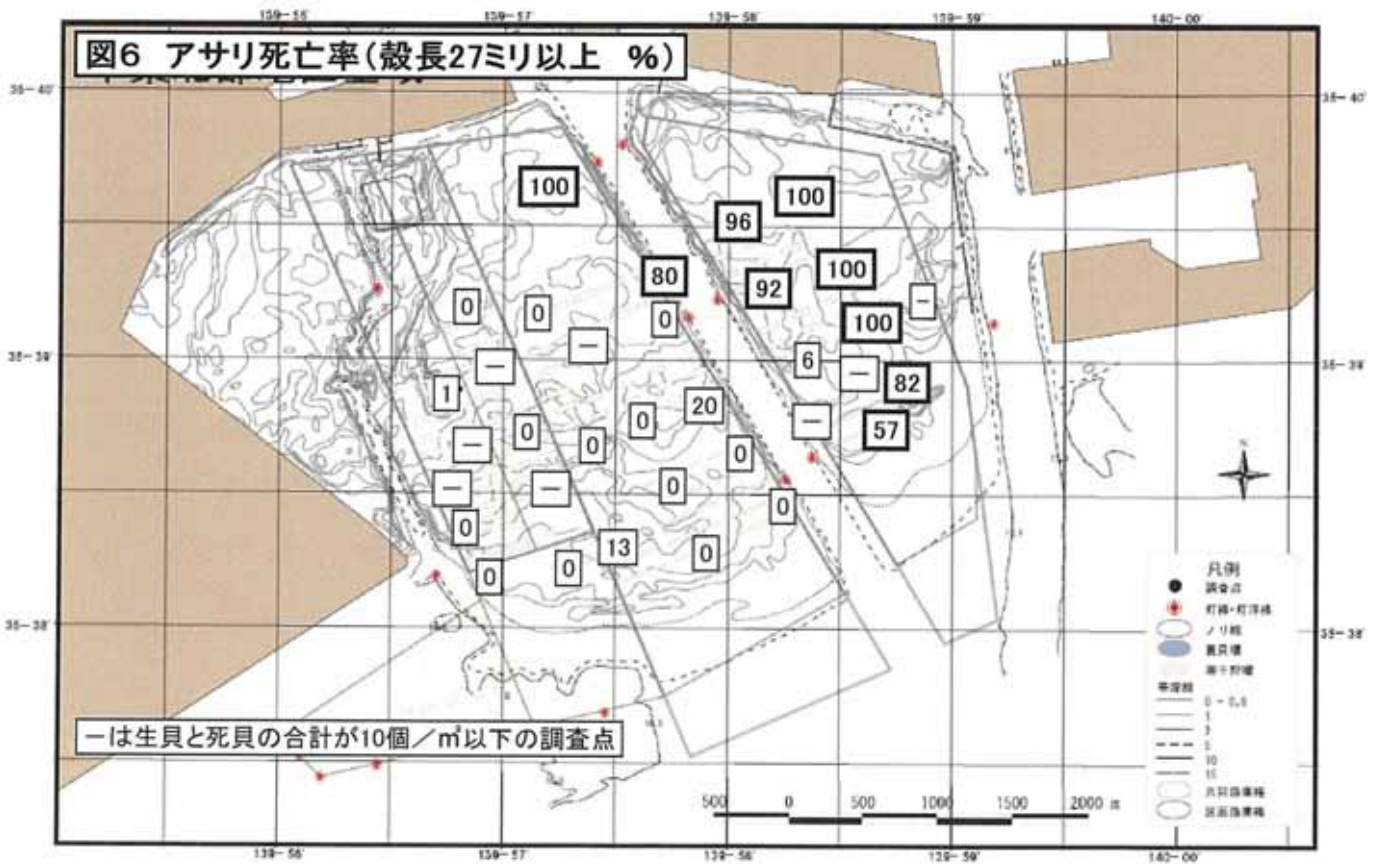
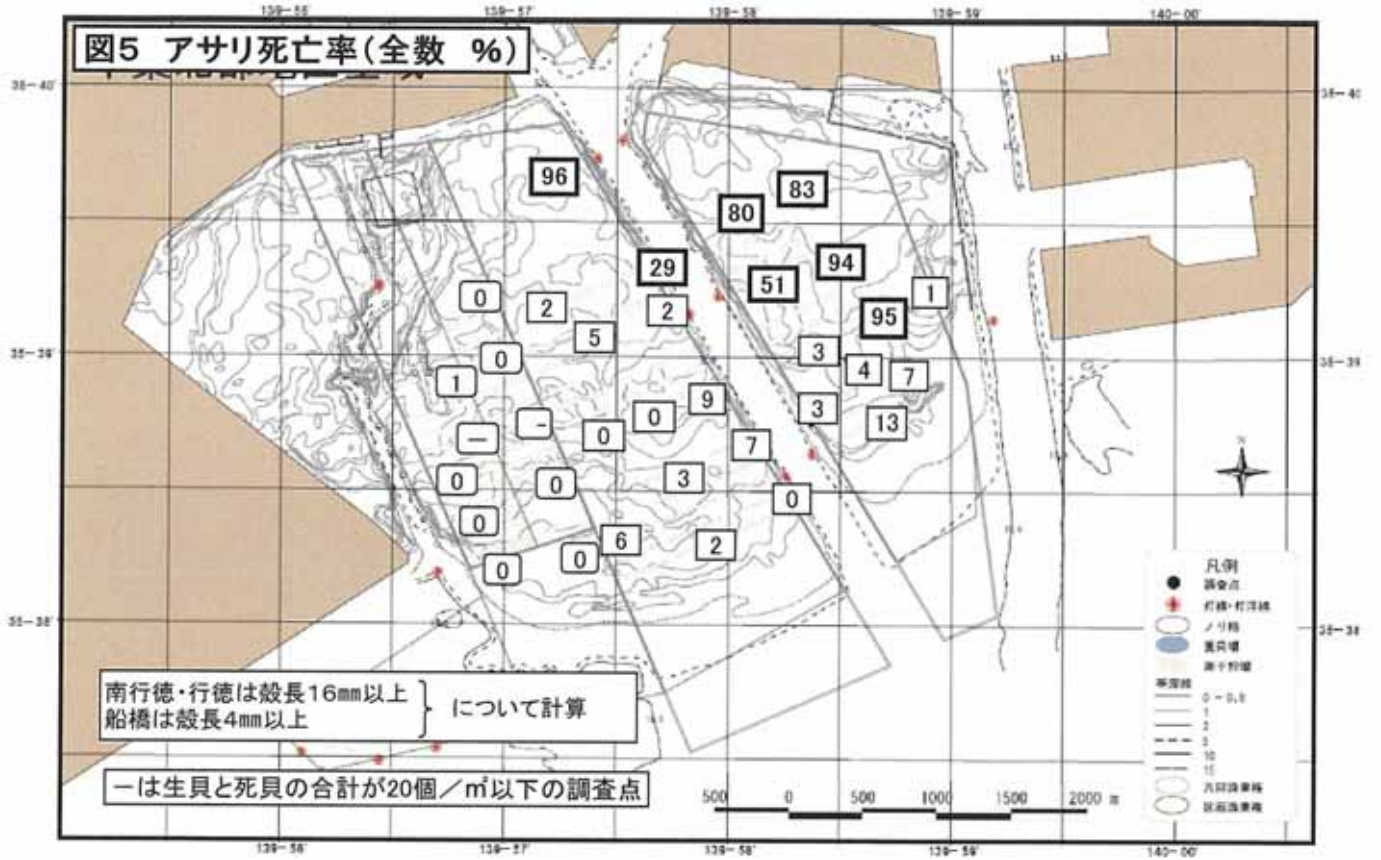


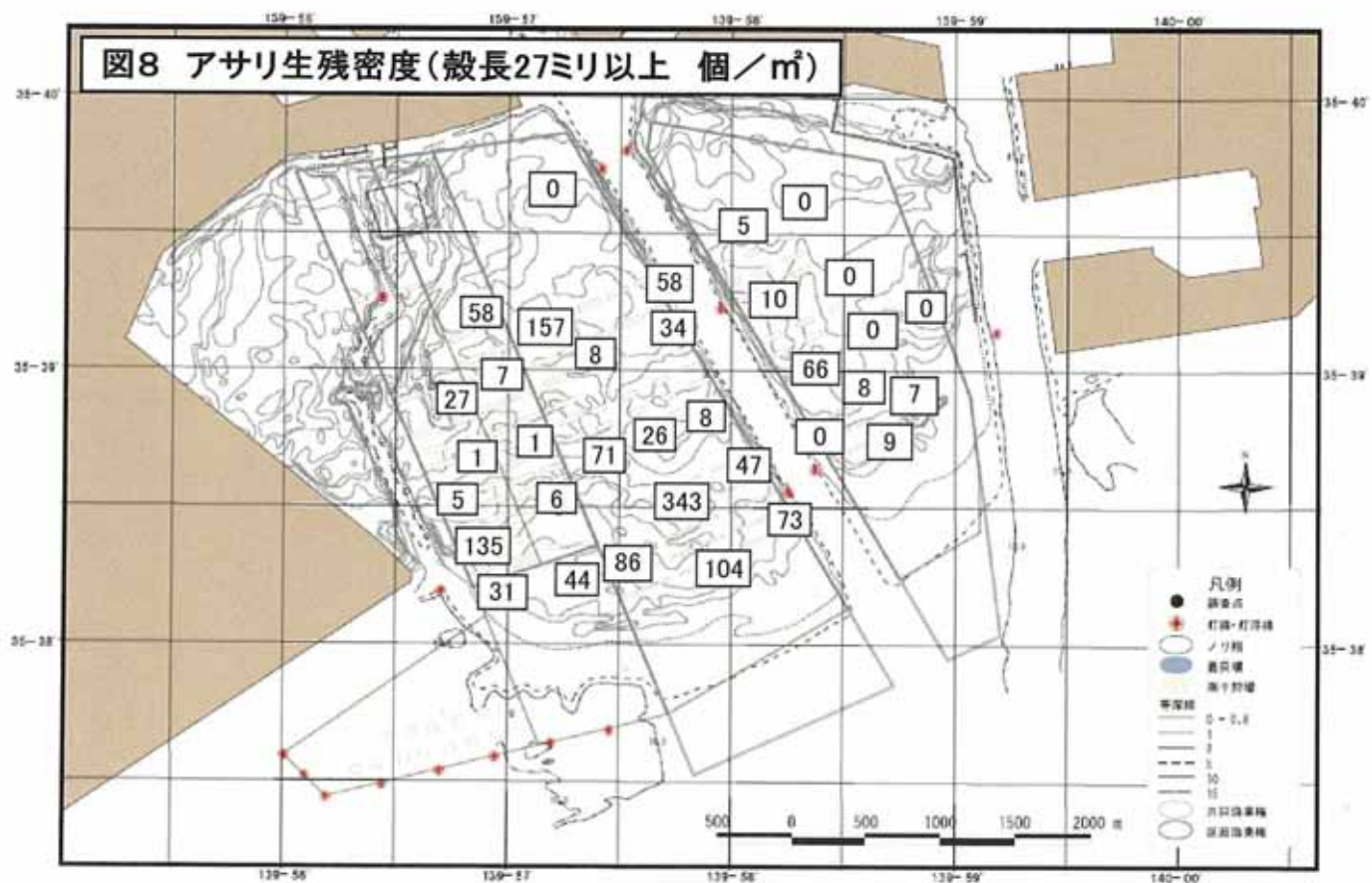
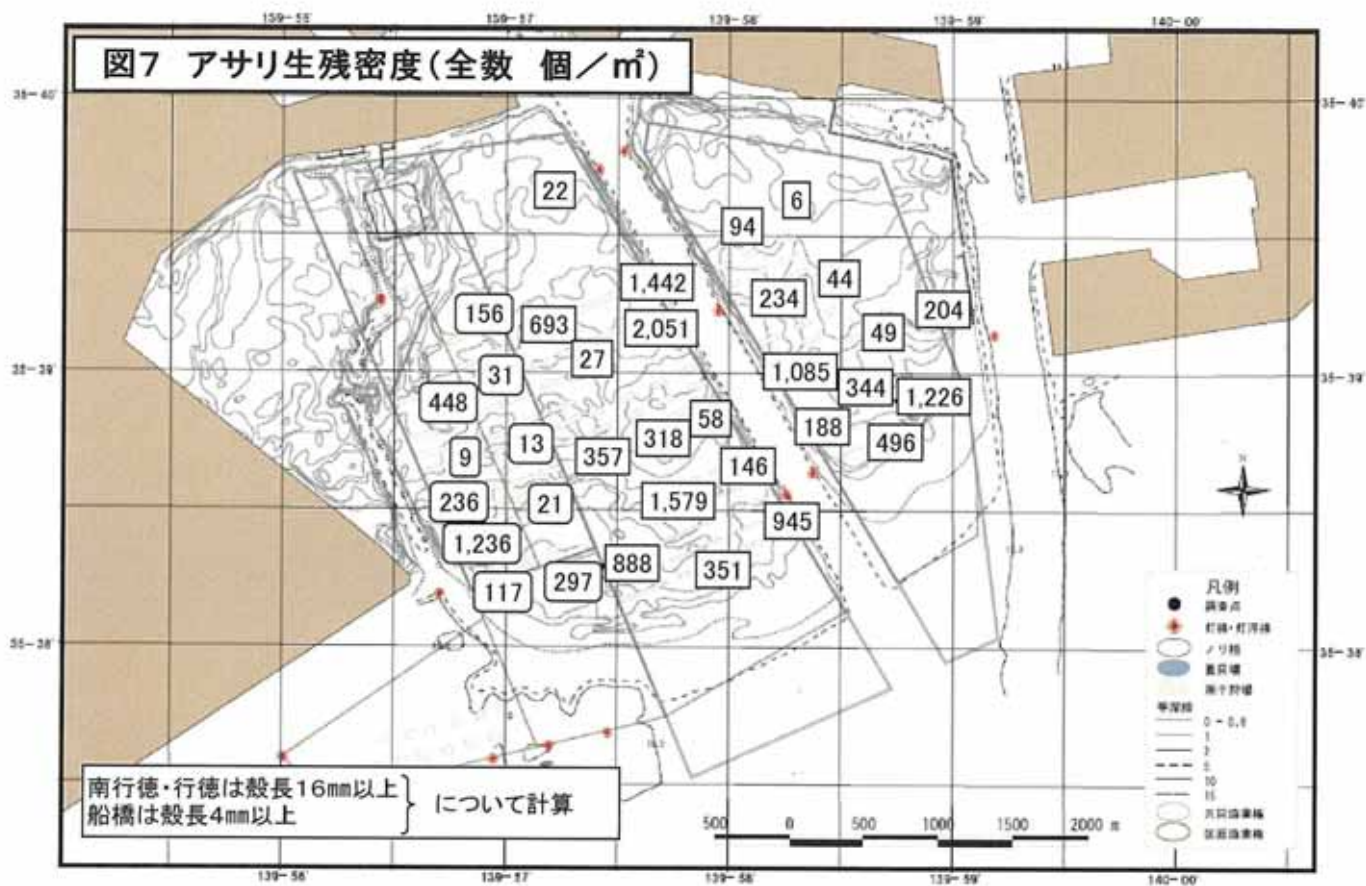
注: st33及び34は欠番













## 船橋市港内におけるごみの漂着について

平成19年9月10日  
千葉県県土整備部港湾課  
港湾整備室  
電話043-223-3849

台風9号による影響で、江戸川放水路から来たと思われる流木、竹、葦等、大量のごみが、船橋市港内に漂着しています。  
現在、県の葛南地域整備センター葛南港湾事務所では、下記のとおり撤去作業を進めております。

### 記

作業期間： 本日より回収作業を開始し、概ね10日程度かかる見込み  
施工方法： 清掃船および工事用の作業船により回収し焼却予定  
漂流範囲： 船橋市日ノ出町前面海域にわたり5haから10ha程度漂流  
費用： 現在算定中





## 台風9号に伴う船橋港の流木等対策について

経緯 9月8日(土)、船橋市漁業協同組合から「千葉港葛南中央地区に流木が漂着している」との連絡が葛南港湾事務所であり、水門を閉鎖し撤去に着手。

主な漂着場所 西浦水門から海老川水門に至る護岸・岸壁前面

使用船舶 8日間のべ33隻

葛南港湾事務所	「せいかい」	9月8日～15日
千葉港湾事務所	「第2せいこう」	9月12日～14日
国土交通省	「べいくりん」	9月11日～12日
民間	クレーン付台船、バックホ台船ほか	9月10日～14日

撤去量 約1,000m<sup>3</sup>

処分場所等 中央ふ頭A岸壁から陸揚げ 約2Km先の野積場で保管中  
天日乾燥させ、千葉塵芥処理場で焼却処分する予定

## 台風9号による谷津干潟への漂着ゴミの対応について

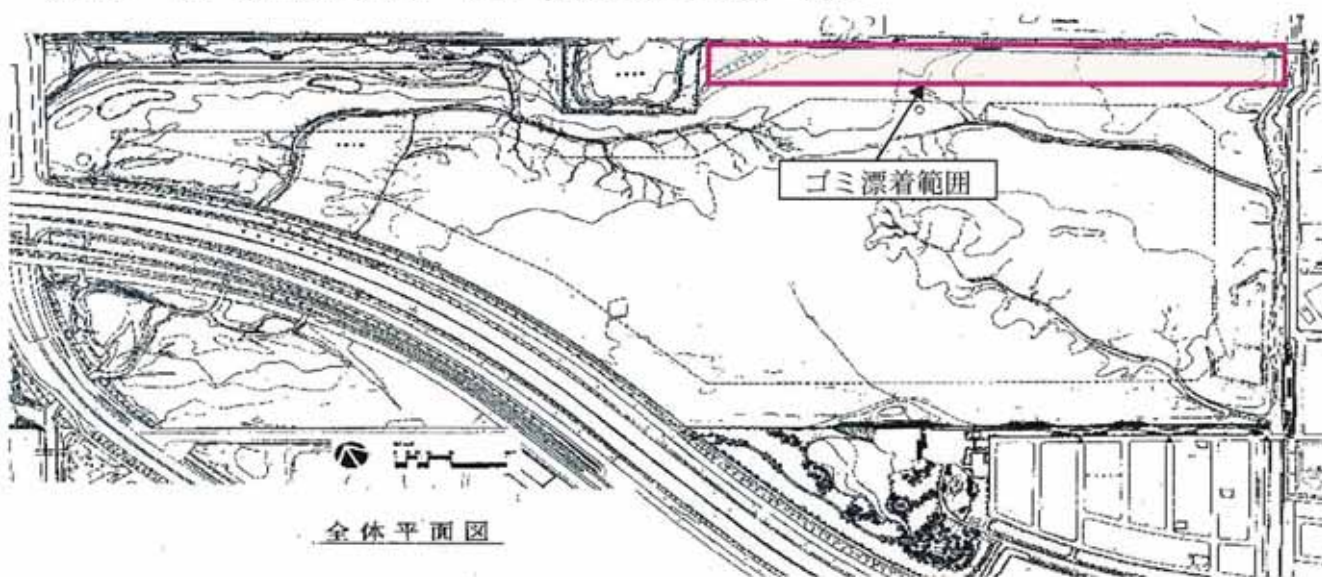
9月10日、大量のゴミが谷津干潟に漂着しているとの観察センターからの報告を受け、現地を確認。流木、アシなどのゴミが谷津干潟北岸東側に幅約400メートル、奥行き5～30メートルにわたって漂着していることを確認した。このゴミは、台風9号の影響により河川から東京湾に流入したゴミが8日夜から9日にかけて東京湾と谷津干潟を結ぶ谷津川を通り干潟内に漂着したと思われる。

市では、干潟の保全、景観などの観点から市民、保全団体などの協力を得て、漂着ゴミの除去作業を実施した。

なお、市の作業で除去しきれなかったゴミについては、現在、環境省で対応している。

### 1. ゴミ漂着範囲

- 1) 場 所 谷津干潟北岸東側(下記図)
- 2) 範 囲 幅:約400メートル 奥行き5～30メートル



### 2. 状況写真



### 3. 除去状況

	作業日	人数	除去量 (kg)	備考
市委託業者	9月10～27日うち6日間	32名	15,990	(実施日) 9/10. 13. 14. 25. 26. 27
市民クリーン作戦	9月24日(祝)	135名	6,250	(参加者内訳) ・一般参加者 122名 ・市及び観察センター職員 13名
環境部職員	9月28日(金)	13名	1,860	
		180名	24,100	